

# 大学空手道に対するイメージの因子分析的研究

## 空手道部員群と非空手道部員群との比較

### A study of Consciousness Factors Tactors Karatedo in University Karatedo Athletes

泉 賢司    中島 豺    野木将典    小森富士登

#### <目 次>

#### 1. はじめに

#### 2. 方 法

- (1) イメージの概念について
- (2) 質問紙の内容および調査方法
- (3) 被検者
- (4) イメージの推定方法

#### 3. 結果と考察

- (1) 両群の空手道に対するイメージの構造
- (2) 大学空手道部員群の空手道に対するイメージの構造
- (3) 大学非空手道部員群の空手道に対するイメージの構造

#### 4. ま と め

引用・参考文献

#### 1. はじめに

空手道は、近年さまざまなルールによって格闘技（スポーツ）として発展してきているが、ややもすればこれが本来の空手道かと誤解される面もある。

最近、テレビなどでリング上で行われる K・I とか、フルコンタクトの格闘技をよく目にするが、これは発展的段階のものであって、本来の空手道とは違ってきている。本来の空手道は、身に何もつけないで行ってきているもので、拳にボクシングのグロー

ブを付けたら手を使って行う空手の技は使えないのである。また、打ち方も当然ボクシングの打ち方になる。元々、古来沖繩では空手のことを「<sup>テ</sup>手」と呼んでいた。ちなみに手にある技だけを紹介すれば、正拳、一本拳、中高一本拳、平拳、裏拳、拳槌、手刀、背刀、底掌、背手、貫手（一本、二本、五本）、鶏頭、鶴頭、熊手、鷺手などの数多くの技があることが分かると思う。しかし、スポーツとしてやっていくためには、素手のままだと危険が多きすぎるからグローブをはめて行うことは致し方はないのかもしれない。

ここで空手の技について説明しようとは思わないが、私の言いたいことは一般的にどこまで空手道について理解しているかということと、大学空手道部員の中でも、どこまで空手道について意識して行動しているかということを知るべく研究を進めた。

空手道の場合、剣道や柔道とは違い流派及びそれに伴うルールが多すぎるため、非常にイメージ的につかみにくいところがあると思う。ここで空手道に対するイメージを把握しておくことが、今後の指導にとって必要であると考えた。

調査は大学生を対象に、各大学で空手道を行っている大学空手道部員群97名、空手道を行っていない大学非空手道部員群200名を対象に比較検討するものである。

## 2. 方 法

### (1) イメージの概念について

スポーツ心理学の領域ではイメージという用語がしばしば用いられるが、その語義は広義、狭義に解釈され、必ずしも明確であるとは言えない。リチャードソン(Rechardson)はイメージ残像、直感像、記憶心像、想像イメージと広範囲に分類している。

猪股ら<sup>3)</sup>、伊藤ら<sup>4)</sup>、西田ら<sup>8)</sup>の研究もこの説に属する。西田らはその研究でイメージを過去経験（知覚的、感覚的、感情的経験など）によって外界の事物の知覚と類同的に経験、保持された情報が自己の記憶を手がかりとしての意識的なレベルで想起、あるいは再生させられたもので絵画的な特性を持つと定義している。さらに鶴原ら<sup>14)</sup>は今までの研究からイメージの定義を3つの類型に識別し、スポーツ心理学では身体運動について意識内容、運動プロセスの研究の殆どがリチャードソンの説に属するとし、身体運動の意識内容をさす場合、イメージを過去の運動経験によって蓄えられた視覚的、筋感覚的、体制感覚的その他の感覚的記憶から生じている身体運動についての準感覚的な体験であり、ある身体運動が備えている一定の時間的連続を持ったもの

であると定義している。

本研究は、質問紙調査法により過去のそれぞれ違った経験をもつ学生の空手道に対してのイメージをとらえようとするもので、リチャードソンの説に従う。

## (2) 質問紙の内容及び調査方法

質問紙は、表1に示すように講道館柔道科学研究会、普及と対策班（代表、松本芳三）作成の質問紙を空手道に置き換えたものを用いた。（表1）

質問項目及びそのカテゴリーの分類にあたっては、松本芳三、川村偵三らの「各国柔道の実態調査」、花田敬一らの「スポーツマン的性格」、尾形敬史らの「柔道に対する意識の研究（第一報）」等の文献より、スポーツマンの特性及びスポーツマンとして要求される項目を収集して、次のような項目に分けた。

質問項目は、社会性、意志性、活動性、身体性、情緒性の5つのカテゴリーに分類されており、

（社会性）・・・・・・（1）指導性がある、（6）正義感がある、（11）礼儀正しい、（16）誠実である、（21）公正である、（26）社交性がある、（31）規則を守る、（35）協同的である、の8項目。

（意志性）・・・・・・（2）責任感が強い、（7）勇気がある、（12）決断力がある、（17）忍耐力がある、（22）努力家である、（27）自主性がある、（32）意志が強い、の7項目。

（活動性）・・・・・・（3）慎重である、（8）集中力がある、（13）物事を正確に行う、（18）活動的である、（23）積極的である、（28）闘争的である、（33）実践的である、の7項目。

（身体性）・・・・・・（4）からだに自信を持っている、（9）体力的に持久力がある、（14）安全感がある、（19）健康的である、（24）精力的である、（29）動作が敏感である、（34）節制心がある、の7項目。

（情緒性）・・・・・・（5）情緒が安定している、（10）物事にこだわらない、（15）落ち着きがある、（20）素直である、（25）明朗である、（30）楽天的である、の6項目、計35項目で、質問用紙ではそれらの項目はアトランダムに配置され、それぞれの項目について5段階評価尺度法によって調査が行われた。

表-1 質問項目

年齢（ 歳）， 性別（男 女）， 「どちらかに ○を」

あなたは空手道を行っている人に対してどんなイメージを持っていますか。  
あなたの考えに当てはまる番号を○で囲んで下さい。その際できるだけ第一印象で答えて下さい。

	もっとも強く感じる (1) あまり感じない (4)	かなり強く感じる (2) 全く感じない (5)	普通 (3)			
1	指導性がある。	1	2	3	4	5
2	責任感がある。	1	2	3	4	5
3	慎重である。	1	2	3	4	5
4	身体に自信を持っている。	1	2	3	4	5
5	情緒が安定している。	1	2	3	4	5
6	正義感がある。	1	2	3	4	5
7	勇気がある。	1	2	3	4	5
8	集中力がある。	1	2	3	4	5
9	体力的に持久力がある。	1	2	3	4	5
10	物事にこだわらない。	1	2	3	4	5
11	礼儀正しい。	1	2	3	4	5
12	決断力がある。	1	2	3	4	5
13	物事を正確に行う。	1	2	3	4	5
14	安全感がある。	1	2	3	4	5
15	落ち着きがある。	1	2	3	4	5
16	誠実である。	1	2	3	4	5
17	忍耐力がある。	1	2	3	4	5
18	活動的である。	1	2	3	4	5
19	健康的である。	1	2	3	4	5
20	素直である。	1	2	3	4	5
21	公正である。	1	2	3	4	5
22	努力家である。	1	2	3	4	5
23	積極的である。	1	2	3	4	5
24	精力的である。	1	2	3	4	5
25	明朗である。	1	2	3	4	5
26	社交性がある。	1	2	3	4	5
27	自主性がある。	1	2	3	4	5
28	闘争的である。	1	2	3	4	5
29	動作が機敏である。	1	2	3	4	5
30	楽天的である。	1	2	3	4	5
31	規則を守る。	1	2	3	4	5
32	意志が強い。	1	2	3	4	5
33	実践的である。	1	2	3	4	5
34	節制心がある。	1	2	3	4	5
35	協同的である。	1	2	3	4	5

### (3) 被検者

本研究の調査対象は、K大学、T大学、A大学、N大学、K大学と5大学の空手道部員97名（大学空手道群）、一般学生200名（大学非空手道群）の計297名で、年齢は18歳から22歳の男女である。平成13年6月から10月までにアンケート調査を実施した。

回収された質問紙のうち、解答欄に不備のあるもの、あるいは回答態度にふまじめさのうかがえるものはカットした。

### (4) イメージの推定方法

本研究では、空手道に対するイメージの構造を統計学立場から推定するための方法として因子分析法を用いることにする。

調査後回収された質問用紙について

もっとも強く感じる・・・・・・5

かなり強く感じる・・・・・・4

普通・・・・・・・・・・・・・・3

あまり感じない・・・・・・・・・・2

まったく感じない・・・・・・・・・・1

として調査内容を得点化し、得られた結果について平均値、標準偏差を計算し、相関行列 (35 35)を求め、主因子法を施し、固有値が1.0以上の主成分について、ノーマル・バリマックス (normal varimax) 基準による直交回転を適用して多因子解を求めた。

## 3. 結果と考察

(1) 大学空手道群と大学非空手道群を合わせた両群（大学空手道群及び大学非空手道群）について因子分析法を用いて推定の結果、表2・表3の抽出された回転後の因子負荷行列にみられるように10因子が抽出された、第1因子から第10因子までの全分散に対する累積貢献度は69.45%であった。ここで因子負荷量については0.4以上を有意と定め、解釈のための最低基準とした。

表-2 回転後の因子負荷行列 (両群)

項目・因子	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1				0.721						
2				0.784						
3				0.700						
4	0.727									
5			0.573							
6										
7								0.648		
8	0.521									
9	0.720									
10									0.646	
11		0.551								
12								0.835		
13			0.598							
14			0.601							
15			0.703							
16		0.518								
17	0.528									
18					0.630					
19					0.699					
20							0.693			
21							0.667			
22	0.638									
23										
24										
25					0.507					
26										0.842
27										
28	0.539									
29	0.584									
30									0.763	
31		0.706								
32		0.613								
33	0.519									
34						0.746				
35						0.743				
貢献量	7.385	3.953	3.095	2.404	1.939	1.547	1.214	1.159	0.835	0.771
貢献度	21.10	11.29	8.84	6.87	5.54	4.42	3.47	3.31	2.39	2.21
累積貢献度	21.10	32.40	41.24	48.11	56.65	58.07	61.54	64.86	67.24	69.45



### 第1因子

第1因子の全分散に対する貢献度は21.10%であり、因子負荷量の高いものから順に列挙すると、

(4) からだに自信を持っている	(0.727)
(9) 体力的に持久力がある	(0.720)
(22) 努力家である	(0.638)
(29) 動作が機敏である	(0.584)
(28) 闘争的である	(0.539)
(17) 忍耐力がある	(0.528)
(8) 集中力がある	(0.521)
(33) 実践的である	(0.519)

の8項目が抽出された。(4)(9)(29)は身体性因子、(22)(17)は意志性因子、(8)(33)は活動性因子であった。ここでは「活動的な身体性因子」と解釈した。

### 第2因子

第2因子の貢献度は11.29%であり、有意の項目を列挙すると

(31) 規則を守る	(0.706)
(32) 意志が強い	(0.613)
(11) 礼儀正しい	(0.551)
(16) 誠実である	(0.518)

の4項目が抽出された。(31)(16)(11)は社会性、(32)は意志性に関する項目であった。ここでは「意志の強い社会性因子」と解釈した。

### 第3因子

第3因子の貢献度は8.84%であり、有意の項目を列挙すると

(15) 落ち着きがある	(0.703)
(14) 安全感がある	(0.601)
(13) 物事を正確に行う	(0.598)
(5) 情緒が安定している	(0.573)

の4項目が抽出された。(5)(15)は情緒性、(13)は活動性、(14)は身体性に関する項目であった。ここでは情緒が安定して「落ち着きのある情緒性因子」と解釈した。

### 第4因子



第4因子の貢献度は6.87%であり、有意の項目を列挙すると

- |            |         |
|------------|---------|
| (2) 責任感が強い | (0.784) |
| (1) 指導性がある | (0.721) |
| (3) 慎重である  | (0.700) |

の3項目が抽出された。(2)は意志性,(1)は社会性,(3)は活動性に関する項目であった。ここでは指導性がある「責任感が強い意志性因子」と解釈した。

#### 第5因子

第5因子の貢献度は5.54%であり、有意の項目を列挙すると

- |             |         |
|-------------|---------|
| (19) 健康的である | (0.699) |
| (18) 活動的である | (630)   |
| (25) 明朗である  | (0.507) |

の3項目が抽出された。(19)は身体性,(18)は活動性,(25)は情緒性に関する項目であった。ここでは「活動性を伴った身体性因子」と解釈した。

#### 第6因子

第6因子の貢献度は4.42%であり、有意の項目を列挙すると

- |             |         |
|-------------|---------|
| (34) 節制心がある | (0.740) |
| (35) 協同的である | (0.743) |

の2項目が抽出された。(34)は身体性,(35)は社会性の2項目であった。ここでは「協力心のある身体性因子」と解釈した。

#### 第7因子

第7因子の貢献度は3.47%であり、有意の項目を列挙すると

- |            |         |
|------------|---------|
| (20) 素直である | (0.693) |
| (21) 公正である | (0.667) |

の2項目が抽出された。(20)は情緒性,(21)は社会性の2項目であった。ここでは素直で公正な「社会性を含んだ情緒性因子」と解釈した。

#### 第8因子

第8因子の貢献度は3.31%であり、有意の項目を列挙すると

- |             |         |
|-------------|---------|
| (12) 決断力がある | (0.835) |
| (7) 勇気がある   | (0.648) |

の2項目が抽出された。2項目とも意志性因子なので、ここでは「決断力のある意志性因子」と解釈した。

### 第9因子

第9因子の貢献度は2.39%であり、有意の項目を列挙すると

(30) 楽天的である (0.763)

(10) 物事にこだわらない (0.646)

の2項目が抽出された。2項目とも情緒性因子なので、ここでは楽天的で「物事にあまりこだわらない情緒性因子」と解釈した。

### 第10因子

第10因子の貢献度は2.21%であり、項目を挙げると

(26) 社交性がある (0.842)

の1項目では因子の解釈が不可能なため、ここでは「解釈不能」としておく。

この結果、両群の空手道に対する意識の構造は

第1因子 活動的な身体性因子

第2因子 意志性の強い社会性因子

第3因子 落ち着きのある情緒性因子

第4因子 責任心の強い意志性因子

第5因子 活動性をともなった身体性因子

第6因子 協力心のある身体性因子

第7因子 社会性を含んだ情緒性因子

第8因子 決断力のある意志性因子

第9因子 物事にこだわらない情緒性因子

第10因子 解釈不能

という因子から構成されていた。

(2) 大学空手道部員群について因子分析法を用いて推定の結果、表4・表5の抽出された回転後の因子負荷行列があらわれ、9の因子が抽出された。第1因子から第9因子までの全分散に対する累積貢献度は53.49%であった。ここでも因子負荷量については0.4以上を有意と定め、解釈のための最低基準とした。

### 第1因子

第1因子の貢献度は22.79%であり、有意の項目を列挙すると

(16) 誠実である	(0.821)
(17) 忍耐力がある	(0.661)
(6) 正義感がある	(0.561)
(22) 努力家である	(0.534)
(15) 落ち着きがある	(0.513)

の5項目が抽出された。(6)(16)は社会性,(17)(22)は意志性,(15)は情緒性に関する項目であった。ここでは「責任感の強い社会性因子」と解釈した。

## 第2因子

第2因子の貢献度は8.56%であり,有意の項目を列挙すると

(30) 楽天的である	(0.722)
(10) 物事にこだわらない	(0.621)
(18) 活動的である	(0.509)
(3) 慎重である	(-0.566)

の4項目が抽出された。(10)(30)は情緒性,(3)(18)は活動性に関する項目であった。ここでは「物事にこだわらない情緒性因子」と解釈した。

## 第3因子

第3因子の貢献度は5.54%であり,有意の項目を列挙すると

(26) 社交性がある	(0.611)
(1) 指導性がある	(0.577)
(27) 自主性がある	(0.552)
(34) 節制心がある	(0.516)
(23) 積極的である	(0.512)

の5項目が抽出された。(1)(26)は社会性,(27)は意志性,(23)は活動性,(34)は身体性に関する項目であった。ここでは「社交性のある社会性因子」と解釈した。

## 第4因子

第4因子の貢献度は3.86%であり,有意の項目を列挙すると

(28) 闘争的である	(0.806)
(29) 動作が機敏である	(0.672)
(8) 集中力がある	(0.597)
(4) からだに自信を持っている	(0.503)

の4項目が抽出された。(8)(28)は活動性,(4)(29)は身体性に関する項目であった。ここでは「闘争的な活動性因子」と解釈した。

### 第5因子

第5因子の貢献度は3.27%であり、有意の項目を列挙すると

(5) 情緒が安定している	(0.779)
(9) 体力的に持久力がある	(0.656)
(7) 勇気がある	(0.569)
(4) からだに自信をもっている	(0.523)

の4項目が抽出された。(5)は情緒性,(9)は身体性,(7)(4)は意志性に関する項目であった。ここでは「身体に自信を持っている意志性因子」と解釈した。

### 第6因子

第6因子の貢献度は2.84であり、有意の項目を列挙すると

(11) 礼儀正しい	(0.814)
(12) 決断力がある	(0.539)
(2) 責任感が強い	(0.501)

の3項目が抽出された。(11)は社会性,(2)(12)は意志性に関する項目であった。ここでは「意志性をもった社会性因子」と解釈した。

### 第7因子

第7因子の貢献度は2.18%であり、有意の項目を列挙すると

(32) 意志が強い	(0.736)
(31) 規則を守る	(0.716)
(35) 協同的である	(0.579)

の3項目が抽出された。(32)は意志性,(31)(35)は社会性に関する項目であった。ここでも「意志性をもった社会性因子」と解釈した。

### 第8因子

第8因子の貢献度は1.85%であり、有意の項目を列挙すると

(19) 健康的である	(0.731)
(20) 素直である	(0.556)
(21) 公正である	(0.554)

の3項目が抽出された。(19)は身体性、(20)は情緒性、(21)は社会性に関する項目であった。ここでは「社会性をもった身体性因子」と解釈した。

### 第9因子

第9因子の貢献度は1.32%であり、有意の項目を列挙すると

(14) 安全感がある (0.832)

の一項目が抽出された。一因子では因子の解釈が不可能なため、ここでは「解釈不能」としておくことにする。

この結果、大学空手道群の空手道に対する意識の構造は

第1因子 責任感の強い社会性因子

第2因子 物事にこだわらない情緒性因子

第3因子 社交性のある社会性因子

第4因子 闘争的な活動因子

第5因子 身体に自信を持っている意志性因子

第6因子 意志性を持った社会性因子

第7因子 意志性を持った社会性因子

第8因子 社会性を持った身体性因子

第9因子 解釈不能

という因子から構成されていた。

表－4 回転後の因子負荷行列（大学空手道部員群）

項目・因子	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1			0.577							
2						0.501				
3		-0.566								
4				0.503	0.523					
5					0.779					
6	0.561									
7					0.569					
8				0.597						
9					0.656					
10		0.621								
11						0.814				
12						0.539				
13										
14									0.832	
15	0.513									
16	0.821									
17	0.661									
18		0.509								
19								0.731		
20								0.556		
21								0.554		
22	0.534									
23			0.512							
24										
25										
26			0.611							
27			0.552							
28				0.806						
29				0.672						
30		0.722								
31							0.716			
32							0.738			
33										
34			0.516							
35							0.579			
貢献量	7.978	2.995	1.939	1.352	1.145	0.995	0.764	0.647	0.462	0.442
貢献度	22.79	8.56	5.54	3.86	3.27	2.84	2.18	1.85	1.32	1.27
累積貢献度	22.79	31.35	36.89	40.76	44.03	46.87	49.06	50.91	52.23	53.49



(3) 大学非空手道群について因子分析法を用いて推定の結果、表6・表7の抽出された回転後の因子負荷行列にみられるように9因子が抽出され、第1因子から第9因子までの全分散に対する累積貢献度は50.44%であった。

### 第1因子

第1因子の貢献度は23.71%であり、有意の項目を列挙すると

- |                 |         |
|-----------------|---------|
| (4) 身体に自信を持っている | (0.689) |
| (9) 体力的に持久力がある  | (0.626) |
| (29) 動作が機敏である   | (0.619) |
| (28) 闘争的である     | (0.508) |
| (22) 努力家である     | (0.573) |

の5項目が抽出された。(4)(9)(29)は身体性、(22)は意志性、(28)は活動性に関する項目であった。ここでは「活動性をともなった身体性因子」と解釈した。

### 第2因子

第2因子の貢献度は5.70%であり、有意の項目を列挙すると

- |              |         |
|--------------|---------|
| (15) 落ち着きがある | (0.683) |
| (32) 意志が強い   | (0.625) |
| (31) 規則をまもる  | (0.619) |

の3項目が抽出された。(15)は情緒性、(32)は意志性、(31)は社会性に関する項目であった。ここでは「意志性の強い情緒性因子」と解釈した。

### 第3因子

第3因子の貢献度は4.21%であり、有意の項目を列挙すると

- |             |         |
|-------------|---------|
| (18) 活動的である | (0.707) |
| (19) 健康的である | (0.671) |
| (27) 自主性がある | (0.559) |

の3項目が抽出された。(18)は活動性、(19)は身体性、(27)は意志性に関する項目であった。ここでは「身体性をともなった活動性因子」と解釈した。

### 第4因子

第4因子の貢献度は3.99%であり、有意の項目を列挙すると

- |             |         |
|-------------|---------|
| (23) 積極的である | (0.684) |
|-------------|---------|



(10) 物事にこだわらない (0.668)

(24) 精力的である (0.655)

の3項目が抽出された。(23) (10) は情緒性, (24) は身体性に関する項目であった。ここでも「身体性をともなった活動性因子」と解釈した。

### 第5因子

第5因子の貢献度は2.82%であり, 有意の項目を列挙すると

(35) 協同的である (0.802)

(34) 節制心がある (0.755)

の2項目が抽出された。(35) は社会性, (34) は身体性に関する項目であった。

ここでは「身体性と関連のある社会性因子」と解釈した。

### 第6因子

第6因子の貢献度は2.49%であり, 有意の項目を列挙すると

(3) 慎重である (0.769)

(2) 責任感がある (0.762)

(1) 指導性がある (0.757)

の3項目が抽出された。(3) は活動性, (2) は意志性, (1) は社会性に関する項目であった。ここでは「責任感の強い活動性因子」と解釈した。

### 第7因子

第7因子の貢献度は2.31%であり, 有意の項目を列挙すると

(12) 決断力がある (0.767)

(7) 勇気がある (0.749)

(8) 集中力がある (0.620)

の3項目が抽出された。(12) (7) は意志性, (8) は活動性に関する項目であった。ここでは「活動を伴った意志性因子」と解釈した。

### 第8因子

第8因子の貢献度は1.98%であり, 有意の項目を列挙すると

(18) 活動的である (0.706)

(21) 健康的である (0.685)

(5) 情緒が安定している (0.597)

の3項目が抽出された。(18)は活動性,(19)は身体性,(5)は情緒性に関する項目であった。ここでは健康的な活動性因子と解釈した。

### 第9因子

第9因子の貢献度は1.70%であり,有意の項目をあげると

(26) 社交性がある (0.821)

の1項目では因子の解釈が不可能なため,ここでは「解釈不能」としておくことにする。この結果,大学非空手道群の空手道に対するイメージの意識の構造は

第1因子 活動性をともなった身体性因子

第2因子 意志性の強い情緒性因子

第3因子 身体性をともなった活動性因子

第4因子 身体性をともなった活動性因子

第5因子 社会性因子

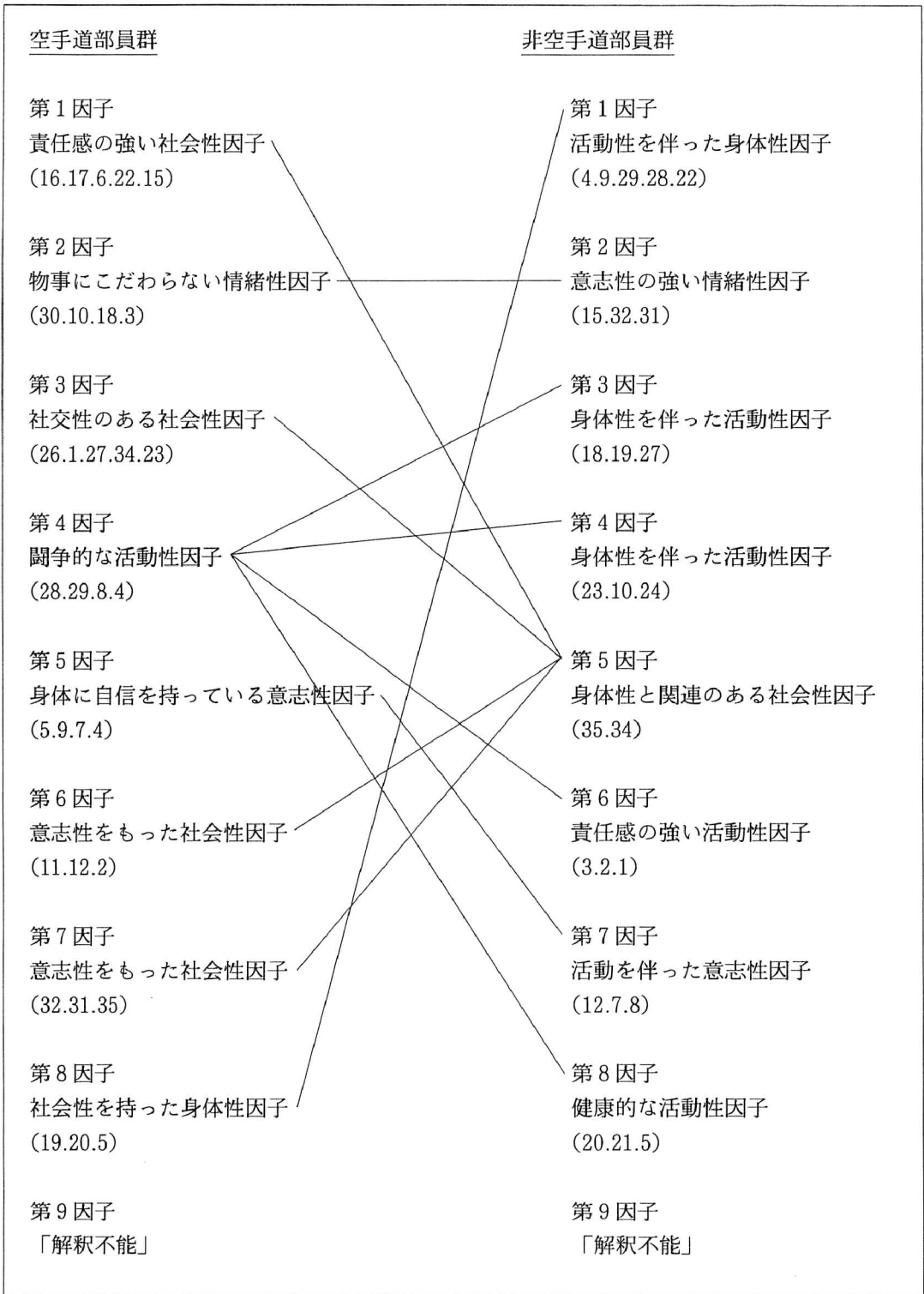
第6因子 責任感の強い活動性因子

第7因子 意志性因子

第8因子 活動性因子

第9因子 解釈不能

という因子から構成されていた。



類似性のみられる因子。 ( ) 内の項目は質問項目番号を表す。

図-1 空手部員群と非空手部員群の因子構造の類似性

表－6 回転後の因子負荷行列（大学非空手道部員群）

項目・因子	1	2	3	4	5	6	7	8	9
1						0.757			
2						0.762			
3						0.769			
4	0.689								
5								0.597	0.597
6									
7							0.749		
8							0.62		
9	0.626								
10				0.668					
11									
12							0.767		
13									
14									
15		0.683							
16									
17									
18			0.707					0.706	
19			0.671					0.685	
20									
21									
22	0.508								
23				0.684					
24				0.655					
25									
26									0.821
27			0.559						
28	0.573								
29	0.619								
30									
31		0.619							
32		0.625							
33									
34					0.755				
35					0.802				
貢献量	8.298	1.994	1.472	1.395	0.988	0.873	0.807	0.694	0.596
貢献度	23.71	5.70	4.21	3.99	2.82	2.49	2.31	1.98	1.70
累積貢献度	23.71	29.71	33.61	37.60	40.43	42.92	45.23	47.21	48.91



#### 4. まとめ

5 大学 K. T. A. N. A. K 空手道部員群 97 名, 非空手道部員群 200 名を対象に, 講道館柔道科学研究会の質問用紙を空手道に置き換えた質問用紙 (35 項目) を用いて, 空手道に対するイメージの構造について比較検討した結果, 次のような結論が得られた。

(1) 大学空手道部員群から 9 因子が抽出され, 空手道に対するイメージの構造として

「責任感の強い社会性因子」

「物事にこだわらない情緒性因子」

「社交性のある社会性因子」

「闘争的な活動性因子」

「身体に自信を持っている意志性因子」

の 5 因子まで, 本研究で抽出された全分散の 44.03% が説明された。大学非空手道部員も 9 因子が抽出され, 空手道に対するイメージの構造として

「活動をともなった身体性因子」

「意志の強い情緒性因子」

「身体性をともなった活動性因子」

「社会性因子」

の 4 因子まで, 抽出された全分散の 40.43% が説明され, 両群の空手道に対するイメージの相違が表れていると推察される。

(2) 仮説をたてた 5 つのカテゴリーにおいて, 社会性, 意志性, 活動性, 身体性, 情緒性について大学空手道部員群は, 社会性因子が多く抽出されたが, 非空手道部員群からは, 活動性因子が多く抽出され, 両群の間に程度差はあれ, 類似性がみられた。

(3) このことから, 大学空手道部員群は, 責任感の強い社会性因子を中心に礼儀正しい, 規則を守る, 正義感がある等の, 人間として生きていくうえで好ましいところが表れていると推察される。

(4) 今後の課題として, 学生だけの対象じゃなく一般 (女性又は高齢者) 又, 外国人なども対象にデータを集め, 今回の学生達との相違を明らかにすることも興味深い課題ではないかと考える。

## 引用・参考文献

- 1) 花田敬一, 竹村昭, 藤善尚憲: 「スポーツマン的性格」不味堂書店, p.175-244, 1970。
- 2) 飯田颯男, 遠藤純男, 菅波盛雄, 青柳領, 田中秀幸, 吉岡剛: 「柔道選手に対するimageの因子分析的研究」武道学研究, 16-2, P.8-17, 1984。
- 3) 猪俣公宏, 伊藤政展, 勝部驚美: 「背泳の学習初期におけるモデル提示によるメンタル・トレーニング効果に関するフィールド研究—その方法論的試論—」体育学研究24-2, p.101-108, 1979。
- 4) 伊藤政展: 「水泳技能の観察学習に関するフィールドリサーチ」体育学研究24-4, p.291-299, 1980。
- 5) 松本芳三, 細川熊蔵, 醍醐敏郎, 工藤信雄, 飯田颯男, 松下三郎, 手塚政孝, 尾形敬史, 小俣幸嗣: 「柔道の普及と対策に関する研究」講道館柔道科学研究会紀要, 第6輯, p.45-61, 1984。
- 6) 松本芳三, 川村禎三: 「各国柔道の実態調査」講道館柔道科学研究会紀要, 第2輯, p.13-20, 1963。
- 7) 松浦義行: 「行動科学における因子分析法」不味堂書店, p.90-106, 1972。
- 8) 西田保, 猪俣公宏, 伊藤政展, 勝部驚美, 小山哲, 岡沢祥訓: 「運動イメージの明瞭性に関する因子分析的研究」体育学研究26-3, p.189-205, 1981。
- 9) 尾形敬史: 「柔道に対する意識の研究(第1報)—中学生を対象にして—」武道学研究, 久米均, 芳賀敏郎, 吉沢正: 「多変量解析法」日科技連出版社, p.323, 1983。
- 10) 鶴原清志, 渡辺章, 中川昭, 荒木雅信: 「運動学習の領域における用語の問題(その2)」スポーツ心理学研究, 8-1, p.48-50, 1981。